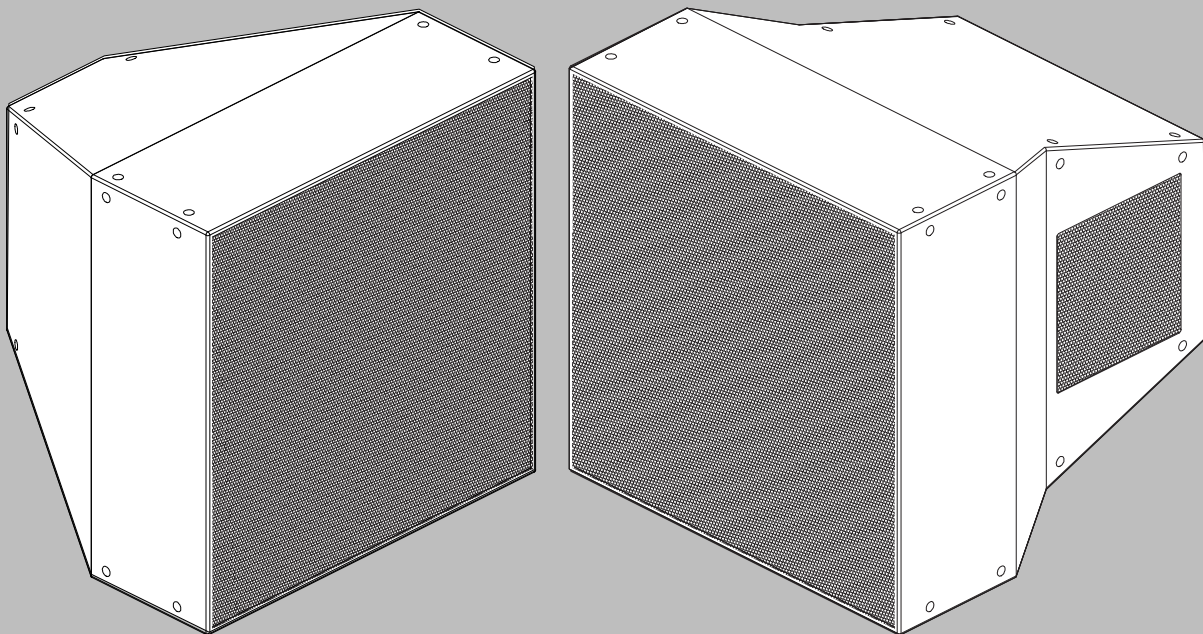


MTS High Output Point Source

MTS-4153-64 | MTS-6154-64 | MTS-4153-43 | MTS-6154-43



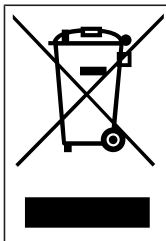
目次

1	安全に関する重要事項	4
1.1	吊り下げ	4
1.2	塩素	5
1.3	ご注意	5
1.4	著作権および免責事項	5
1.5	保護具 (PPE)	5
1.6	安全基準	5
2	システム概要	7
3	寸法	8
3.1	MTS-4153-64 標準モデルの寸法	8
3.2	MTS-6154-64 カーディオイドモデルの寸法	9
3.3	MTS-4153-43 標準モデルの寸法	10
3.4	MTS-6154-43 カーディオイドモデルの寸法	11
4	配線と接続	12
4.1	アンプ構成	12
4.2	標準モデルの入力接続と配線図	13
4.3	カーディオイドモデルの入力接続と配線図	15
4.4	耐候性プレートとグラウンドナットの設置	18
5	MTS アレイの設計	20
5.1	電気音響設計	20
5.2	機械的な設計	20
5.2.1	M10 吊り下げポイント：全般	20
5.2.2	M10 吊り下げポイント：任意の角度での取り付け	21
5.2.3	M10 吊り下げポイント：	22
5.3	推奨されるリギング方法	22
5.3.1	単一のスピーカーを M10 アイボルトを使用して吊り下げる	23
5.3.2	カスタムフレームの設計に関する考慮事項	26
6	耐候性設計に関する考慮事項	31
6.1	IP (浸透保護)	31
6.2	排水孔	31

1 安全に関する重要事項

1. 次の重要事項を確認してください。
2. 次の重要事項を遵守してください。
3. すべての警告に留意してください。
4. すべての重要事項を遵守してください。
5. ラジエータ、暖気吹き出し口、ストーブ、その他の熱発生源（アンプを含む）の近くに本装置を設置しないでください。
6. 本装置は乾いた布以外で清掃しないでください。刺激の強い化学薬品または溶剤は使用しないでください。

古くなった電気および電子機器



本製品およびバッテリーは、家庭用のごみと分別して廃棄しなければなりません。これらの機器は、地域の法律および規制に従って廃棄し、再利用またはリサイクルできるようにしてください。これにより、資源を節約し、人間の健康と環境の保護に役立てることができま

す。

1.1 吊り下げ

警告!

このスピーカーを吊り下げる前に、マニュアルと、すべての安全のインストラクションを読み、よく理解してください。

吊り下げと設置にあたっては、資格を持った人員が行ってください。

関係する、地元のすべての法律や規則に従ってください。不正確、あるいは不適切は吊り下げは、関係者および観客の負傷や、場合によっては死亡も引き起こします。

スピーカーの吊り下げを行う前に、スピーカーならびに関連の金具に、損傷や、ダメージのサインがないか、十分に検査を行ってください。スピーカーを吊り下げる場合、すべてのコンポーネントを、最低年 1 回、あるいは現地の法律や規則に準じ、点検してください。点検の際は、すべての隅と耐荷重面を目視検査し、割れ、水害、剥離など、スピーカー筐体の強度低下につながりかねない問題の徴候がないかを確認してください。もしいずれかの部品が損傷していたり、その疑いがある、あるいは正常に機能するか、そしてその安全性に少しでも疑いがある場合は、直ちにそれらの使用を取りやめてください。

壁または天井、あるいはすべてのアタッチメントが、頭上で吊り下げられるスピーカーの荷重に耐えるかどうかの確認することは、機材を設置する人の責任となります。

Electro-Voice スピーカーやリギング コンポーネントを改造しないでください。また、リギング コンポーネントの一部のみを使用しないでください。

リギング コンポーネントは設計で意図されたスピーカー モデルにのみ使用してください。Electro-Voice 製ではない金具を使用した場合、Electro-Voice はその責任を負いません。

Electro-Voice は、製品の不正な使用、設置、あるいは操作に伴う損害や、人的被害の責任を負うものではありません。



警告!

スピーカーを頭上に吊り下げる際は、適切な定格負荷の機器を備えた補助支持機構を必ず取り付けてください。

主要な留め具が破損した場合に備えてスピーカー落下の防止措置を講じ、スピーカーが急に落ちたり、大きく荷振れしないようにする必要があります。



**警告!**

屋外用途のアレイについては、風荷重、雪など、アレイに外力がかかる可能性のある環境上の影響を考慮する必要があります。資格を持った人員を配置し、現地の環境条件に対して屋外アレイが安全性を備えているかどうか必ず確認してください。

1.2**塩素****警告!**

水泳プールなどの高塩素の環境には MTS スピーカーシステムを設置しないでください。

1.3**ご注意**

	<p>これらの Electro-Voice のスピーカーは、周囲温度 -20°C (-4°F) ~ $+50^{\circ}\text{C}$ (122°F) の環境での使用を想定して設計されています。</p>
	<p>PW (部分耐候性) 仕様の MTS スピーカーは、直接雨にさらされたり、屋外環境に設置したりするようには設計されていません。直接屋外に設置したり、雨にさらされたりする場合には、FW (完全耐候性) 仕様のスピーカーのみを使用してください。</p>
	<p>Electro-Voice スピーカーは、永続的な難聴になるほどの音圧レベルを簡単に生成できます。長時間 90 dB を超える音圧レベルにさらされないように注意してください。</p>
	<p>MTS スピーカーは非常に重く、最小 148 kg (327 lb)、最大 213 kg (470 lb) です。取り扱いと位置決めの際は常に機械的吊り上げ装置を使用し、少なくとも 4 人のスタッフで行ってください。</p>

1.4**著作権および免責事項**

All rights reserved.形態や媒体を問わず、電子的、機械的、フォトコピー、録画、またはその他の方法で、発行者の書面による許可なく本書の内容の一部またはすべてを複製または転送することは禁じられています。情報の転載および引用許可を申請する場合は、Electro-Voice までご連絡ください。仕様、データおよび図を含む本マニュアルのすべての内容は、予告なく変更されることがあります。

1.5**保護具 (PPE)****警告!**

設置に際しては、安全メガネ、安全ヘルメット、安全靴、安全手袋を常時着用してください。この警告に従わない場合、怪我や死に至る恐れがあります。

**1.6****安全基準**

Bosch Security Systems Inc. LLC
130 Perinton Pkwy, Fairport, NY 14450 USA

本製品は以下の指令の関連セクションに適合するように設計され、検証されています。

- EN 62368-1:2018, IEC 60065:2014 (低電圧に関する指令)
- IEC 60529:1989/AMD2:2013/COR1:2019 (IP 等級)
- ISO 12100:2010 (機械に関する指令)

2 システム概要

MTS スピーカーは、超高出力でロングスローのホーンロードポイントソースシステムです。スポーツ競技場、礼拝所、劇場など、高性能が求められる恒久的な設置環境に対応できるように設計されています。このシリーズには、屋外の過酷な環境に耐える頑丈な大型ホーンロードシステムの設計における EV の幅広い経験が集約されています。

すべてのモデルはステンレス製のハードウェアとグリル、耐候性トランスデューサーに加え、内部ブレーシングと高耐久性のポリウレタコーティングを施した、耐久性があるパーティ合板の筐体を備えています。連続電流 40 A 超の電流容量を持つデュアル 8 コンダクター端子ブロックが、鋳造アルミニウム製の入力カップに設置されています。各スピーカーに付属するグラウンドナット付きプレートを使用すると、入力パネルを密封できるほか、スピーカー背面の外観をいつもすっきりと保つことができます。

完全耐候性仕様のモデルは、風雨に直接さらされるなどの過酷な環境に向けて特別に設計されています。これまでに説明した特徴のほか、すべての内外表面部がマリングレードの合板を目張りする耐候性コーティングで仕上げられた、完全な耐候性を備える筐体を使用しています。グリルには、スピーカーの音響出力を妨げることなく、水の侵入を最小限に抑える特別な疎水性布が裏張りされています。

MTS スピーカーは、Dynacord IPX シリーズアンプや SONICUE サウンドシステム制御ソフトウェアとシームレスに統合できます。セットアップと設置を簡単に行えるよう、SONICUE ソフトウェアにはすべての MTS 製品用のプリセットが備わっています。

MTS-4153 標準モデル

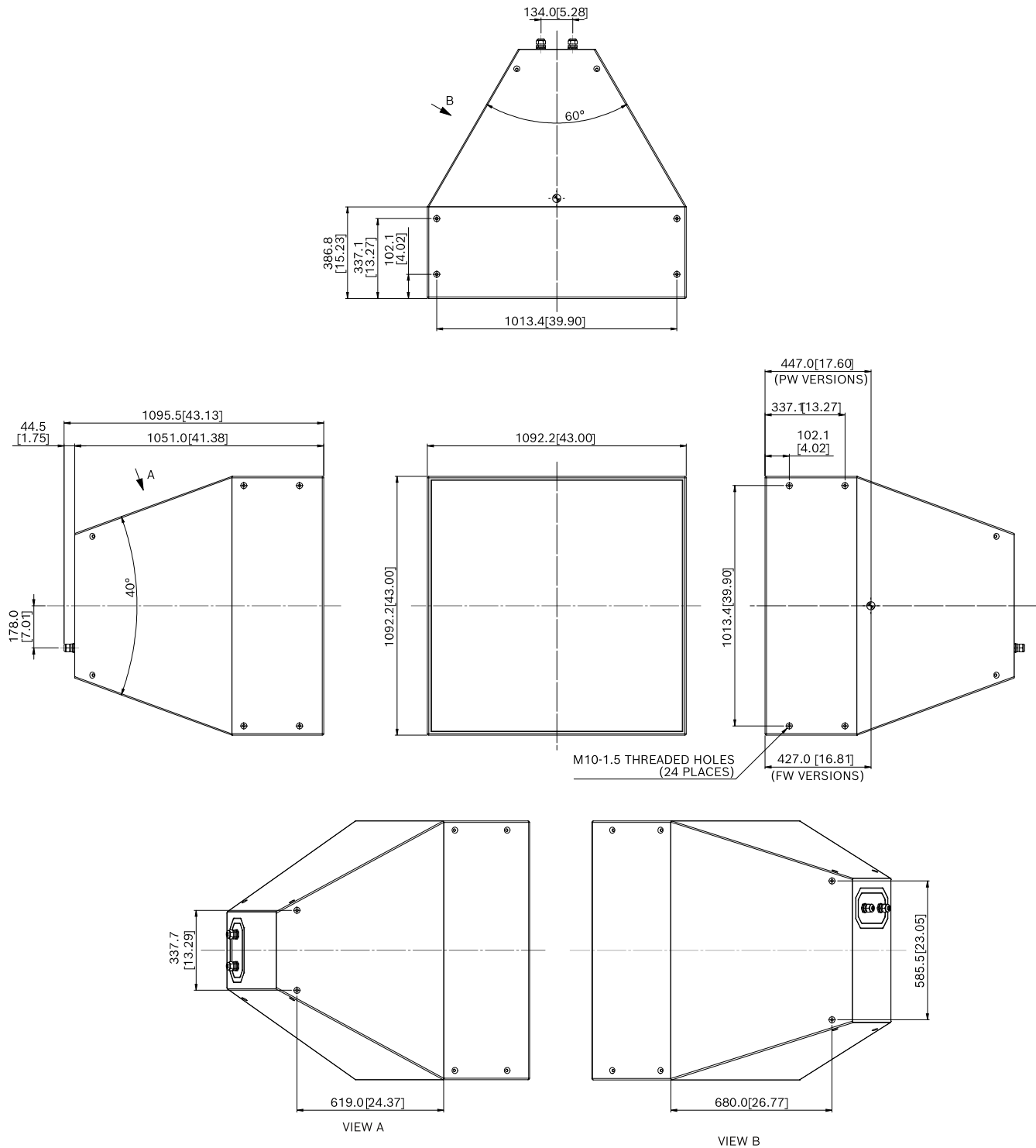
MTS-4153 標準ホーンロードスピーカーは、15 インチ (381 mm) LF ドライバー 4 つと、同軸配置された 1.4 インチ (36 mm) 出口の中 / 高周波数コンプレッションドライバー 2 つで構成されています。これらのトランスデューサーが組み合わさり、定指向性、コエントラント方式の大型アークソースホーンが実現します。カバレッジパターンは 40° x 30° と 60° x 40° の 2 種類から選択できます。効率を最大化し、安定したカバレッジを妨げるホーン内の音響障害をなくすため、コンプレッションドライバーはホーンのスロートに設置されています。大型のホーンにより、最小 400 Hz の正確なパターンコントロールが可能になります。必要なアンプチャンネル数を最小化するため、同軸配置された中 / 高周波数コンプレッションドライバーはオクターブあたりのスロープが 24 dB の高出力パッシブクロスオーバー機能を備えています。スピーカーが緊密にパッキングされてカバレッジの移行がスムーズになるよう、筐体は水平面と垂直面が両方とも台形になっています。MTS スピーカーは黒と白の 2 色から選択できます。水平または垂直構成での吊り下げ用に、各スピーカーには 24 個の M10 ハードポイントがあります。個別のケーブルシステムからスピーカーを吊り下げるか、サードパーティ製構造フレームを使用してください。

MTS-6154 カーディオイドモデル

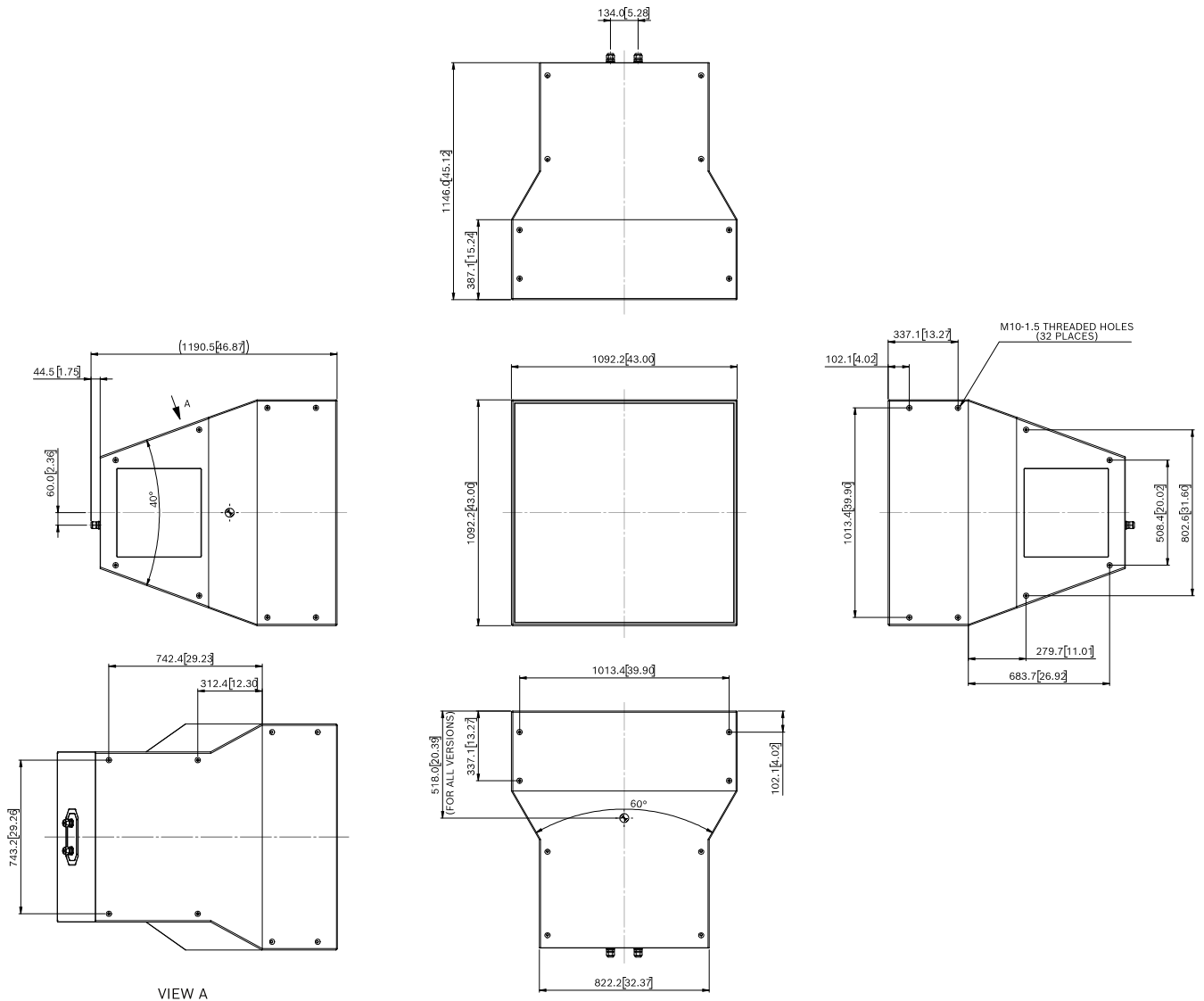
MTS-6154 は標準の 3 ウェイモデルに補完的な性能が追加されたモデルで、キャビネット背面の独立チャンバーに 2 つの 15 インチウーファーが配置されている以外はほぼ同じです。このウーファーペアはカーディオイド構成で配置されているため、スピーカー背面の音響エネルギーがかなり低減されるほか、パターンコントロールがシステムの低周波数カットオフまで拡張されます。カーディオイドセクションには独自に処理されるアンプチャンネルが必要です。カーディオイドモデルには 32 個の M10 吊り下げポイントがあります。

3 寸法

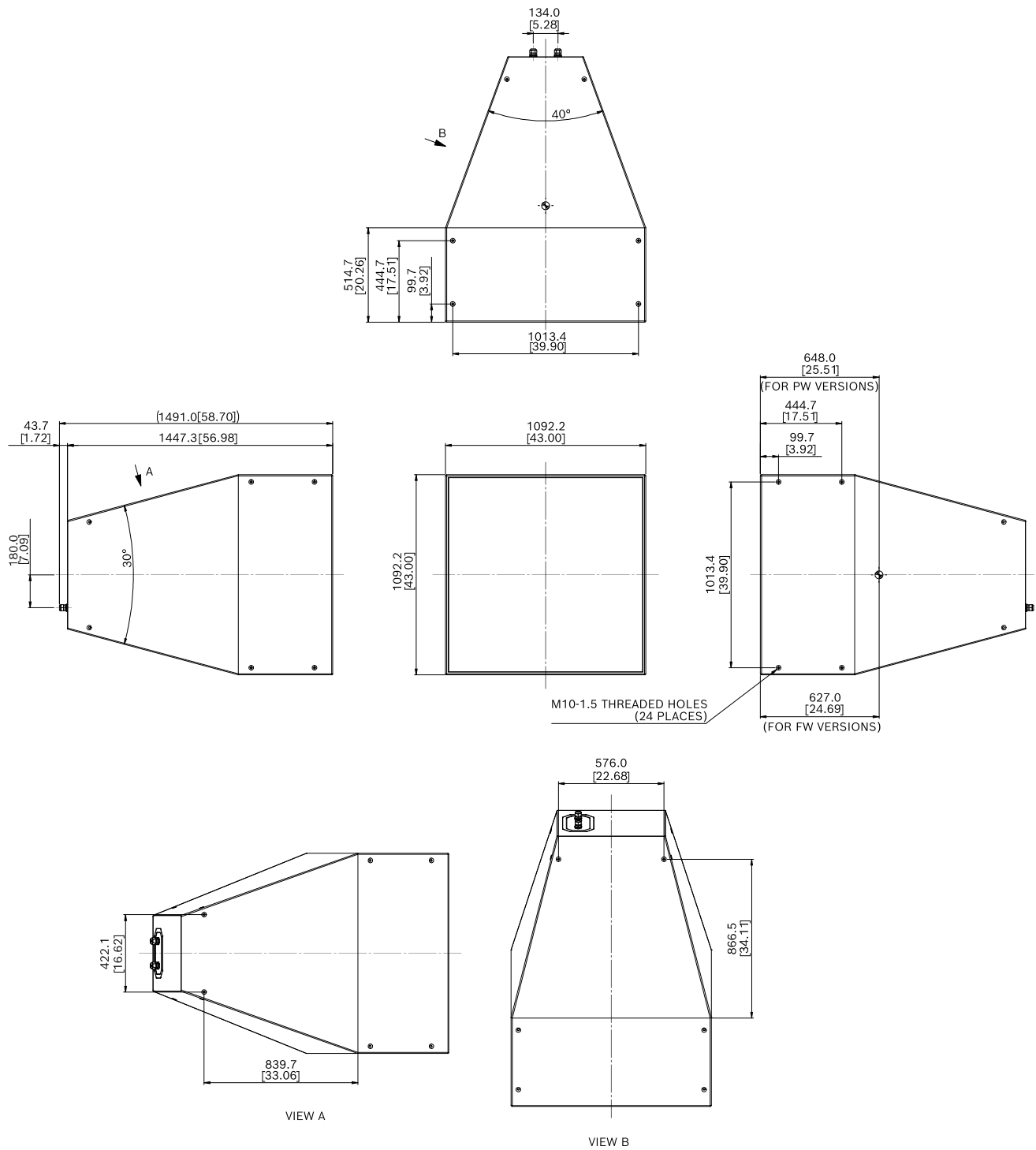
3.1 MTS-4153-64 標準モデルの寸法



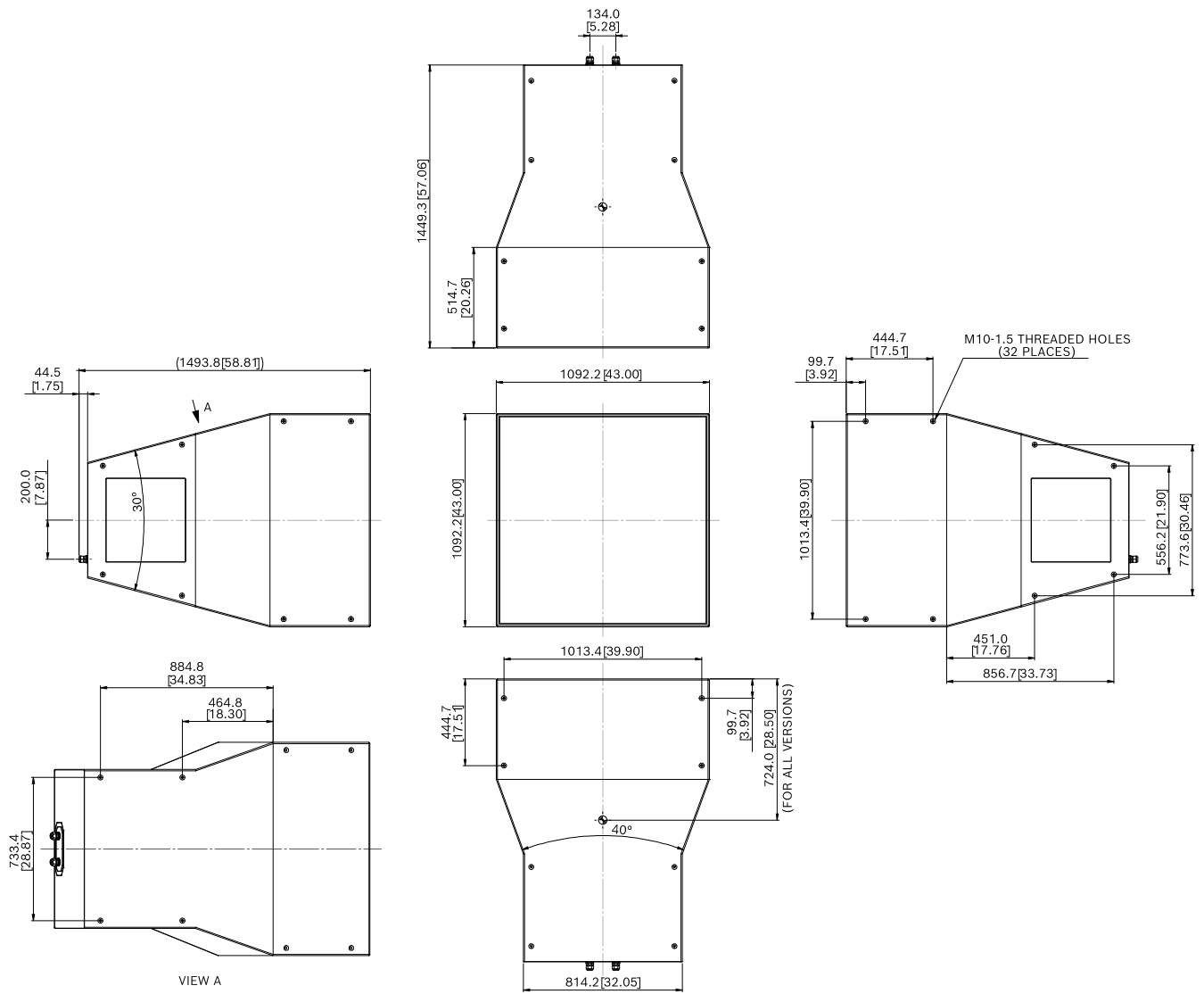
3.2 MTS-6154-64 カーディオイドモデルの寸法



3.3 MTS-4153-43 標準モデルの寸法



3.4 MTS-6154-43 カーディオイドモデルの寸法



4 配線と接続

MTS スピーカーはヘビーデューティな入力パネルを利用し、デュアル 8 コンダクター Phoenix 端子ブロック (Phoenix Contact P/N 1709212) を備えています。コネクタは最大 6 mm² の (10 AWG) より線ワイヤーに対応できます。MTS に付属するグラウンドナット付きのカバープレートを使用すると、スピーカーと配線を水の侵入から保護できます。屋外や風雨などにさらされる環境では、カバープレートを設置する必要があります。屋内でも、いたずら防止や装飾の目的でカバープレートを設置できます。

4.1 アンプ構成

標準モデルで単一アンプを使用する場合

アンプ	IPX 20:4		IPX 10:4
スピーカーの合計台数	2	4	2
チャンネル			
1	LF1 LF2 (1 ボックス)	LF1 LF2 (2 ボックス)	LF1 LF2 (1 ボックス)
2	MHF (1 ボックス)	MHF (2 ボックス)	MHF (1 ボックス)
3	LF1 LF2 (1 ボックス)	LF1 LF2 (2 ボックス)	LF1 LF2 (1 ボックス)
4	MHF (1 ボックス)	MHF (2 ボックス)	MHF (1 ボックス)
モニタリングと 処理	ボックスあたり	1 組あたり	ボックスあたり
最悪のケース 最大の SPL 低減値 (dB)	0*	-0.8	0
* 3 dB ヘッドルーム			

表 4.1: 標準モデルで単一アンプを使用する場合のアンプ構成

カーディオイドモデルで単一アンプを使用する場合

アンプ	IPX 20:4	IPX 10:4	IPX 5:4	IPX 10:8
スピーカーの合計台数	2	2	1	2
チャンネル				
1	LF1 (2 ボックス)	LF1 (2 ボックス)	LF1 (1 ボックス)	LF1 (1 ボックス)
2	LF2 (2 ボックス)	LF2 (2 ボックス)	LF2 (1 ボックス)	LF2 (1 ボックス)
3	MHF (2 ボックス)	MHF (2 ボックス)	MHF (1 ボックス)	MHF (1 ボックス)
4	LF CARDIOID (2 ボックス)	LF CARDIOID (2 ボックス)	LF CARDIOID (1 ボックス)	LF CARDIOID (1 ボックス)

アンプ	IPX 20:4	IPX 10:4	IPX 5:4	IPX 10:8
5				LF1 (1 ボックス)
6				MHF (1 ボックス)
7				LF2 (1 ボックス)
8				LF CARDIOID (1 ボックス)
モニタリングと 処理	1 組あたり	1 組あたり	ボックスあたり	ボックスあたり
最悪のケース 最大の SPL 低減値 (dB)	0*	0	0	0
* 3 dB ヘッドルーム				

表 4.2: カーディオイドモデルで単一アンプを使用する場合のアンプ構成

4.2 標準モデルの入力接続と配線図

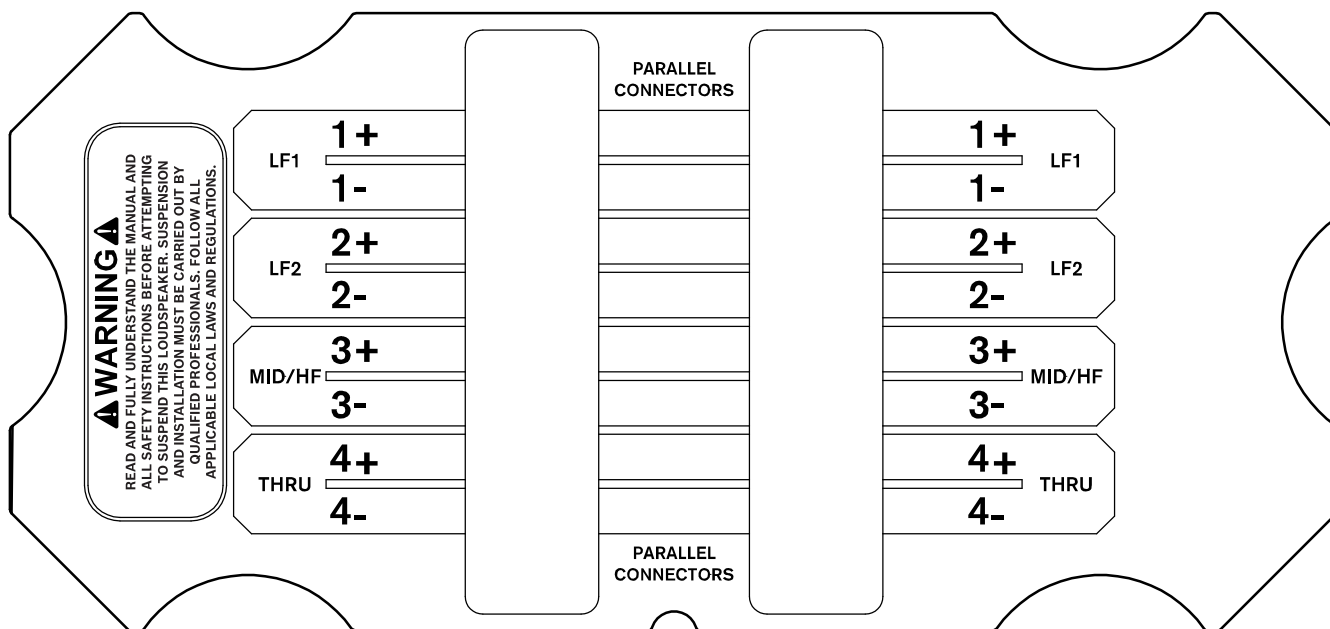


図 4.1: 標準モデルの入力接続のラベル

STANDARD PARALLEL
(バイアンプ構成)

STANDARD DUAL
(トライアンプ構成)

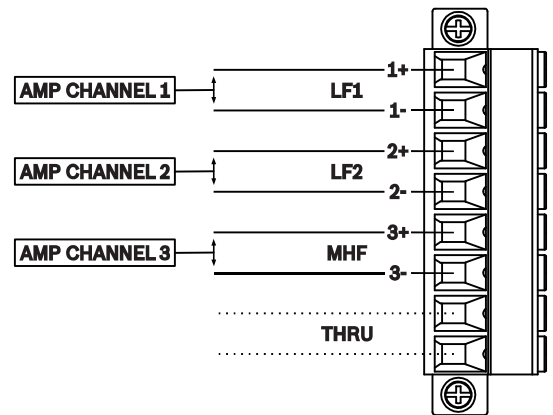
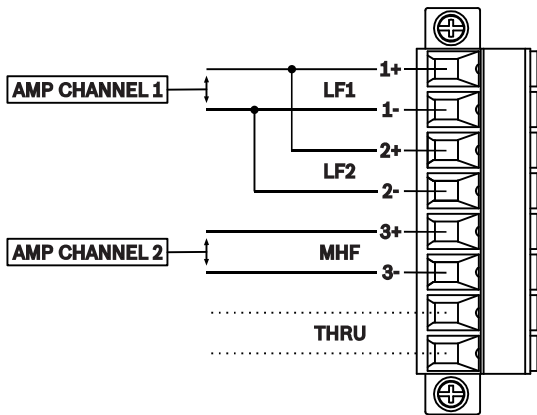
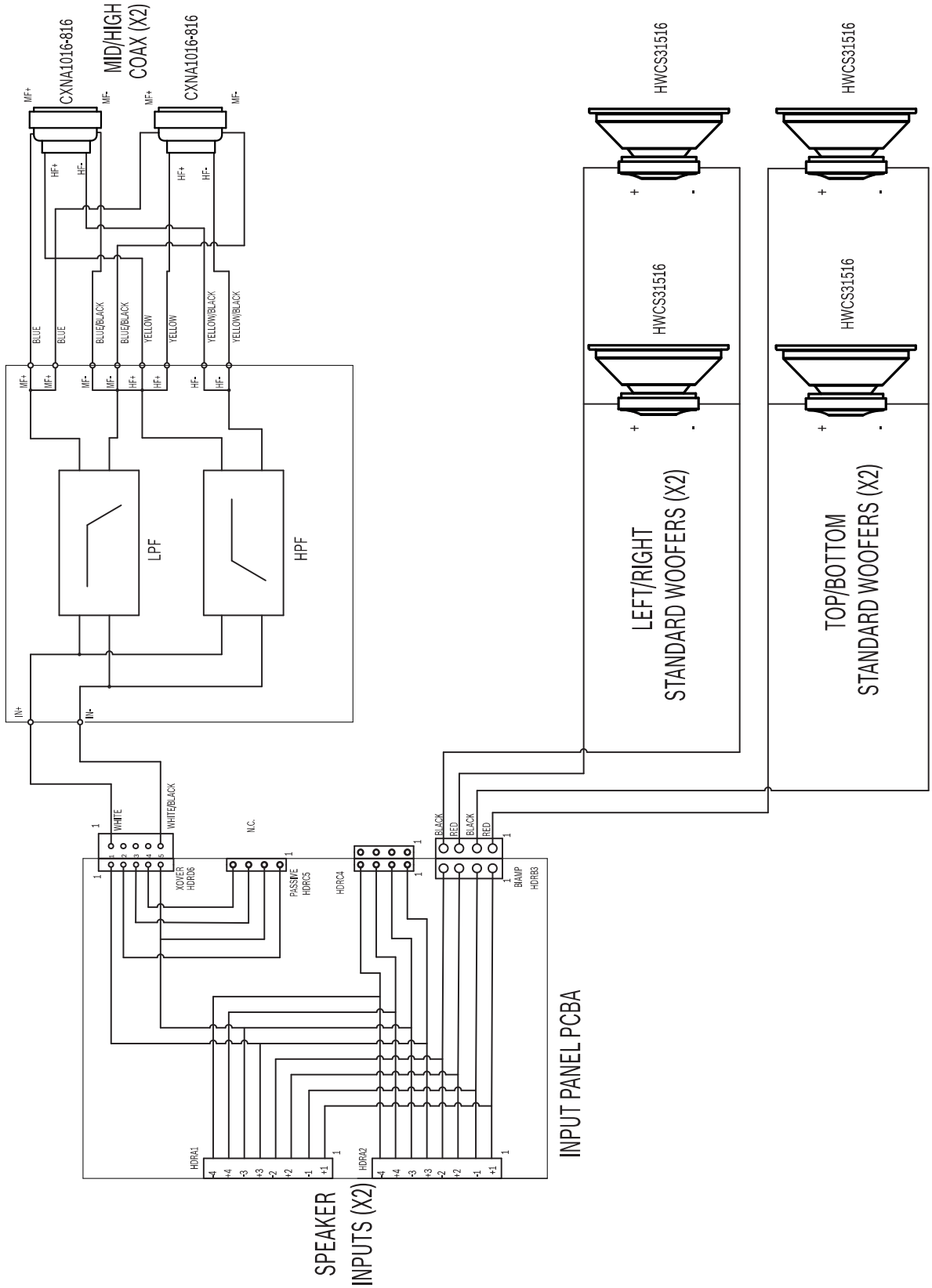


図 4.2: 標準モデルの配線図

STANDARD MODELS
CROSSOVER PCBA



4.3 カードイデオモデルの入力接続と配線図

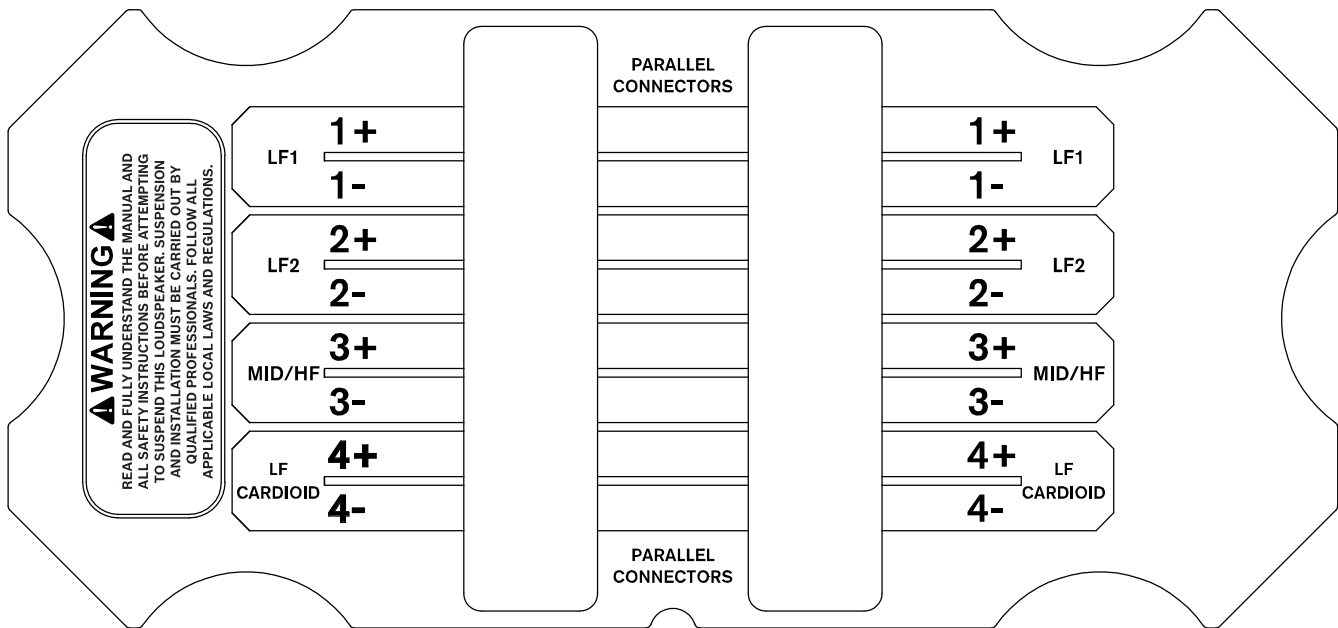
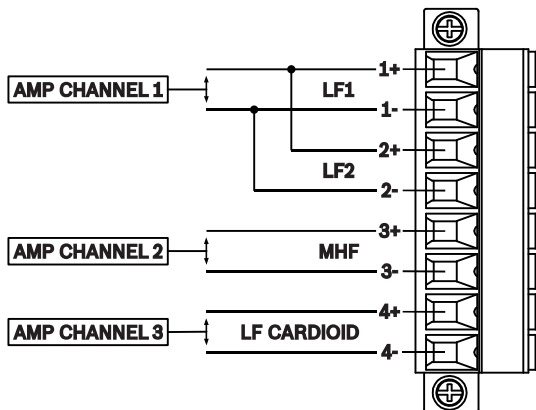


図 4.3: カーディオイドモデルの入力接続のラベル

CARDIOID PARALLEL
(トライアンプ構成)



CARDIOID PARALLEL
(クアッドアンプ構成)

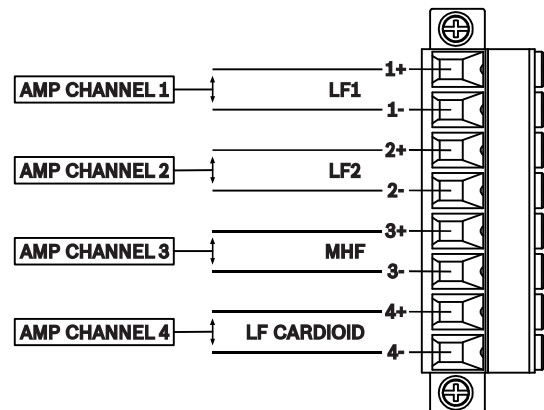
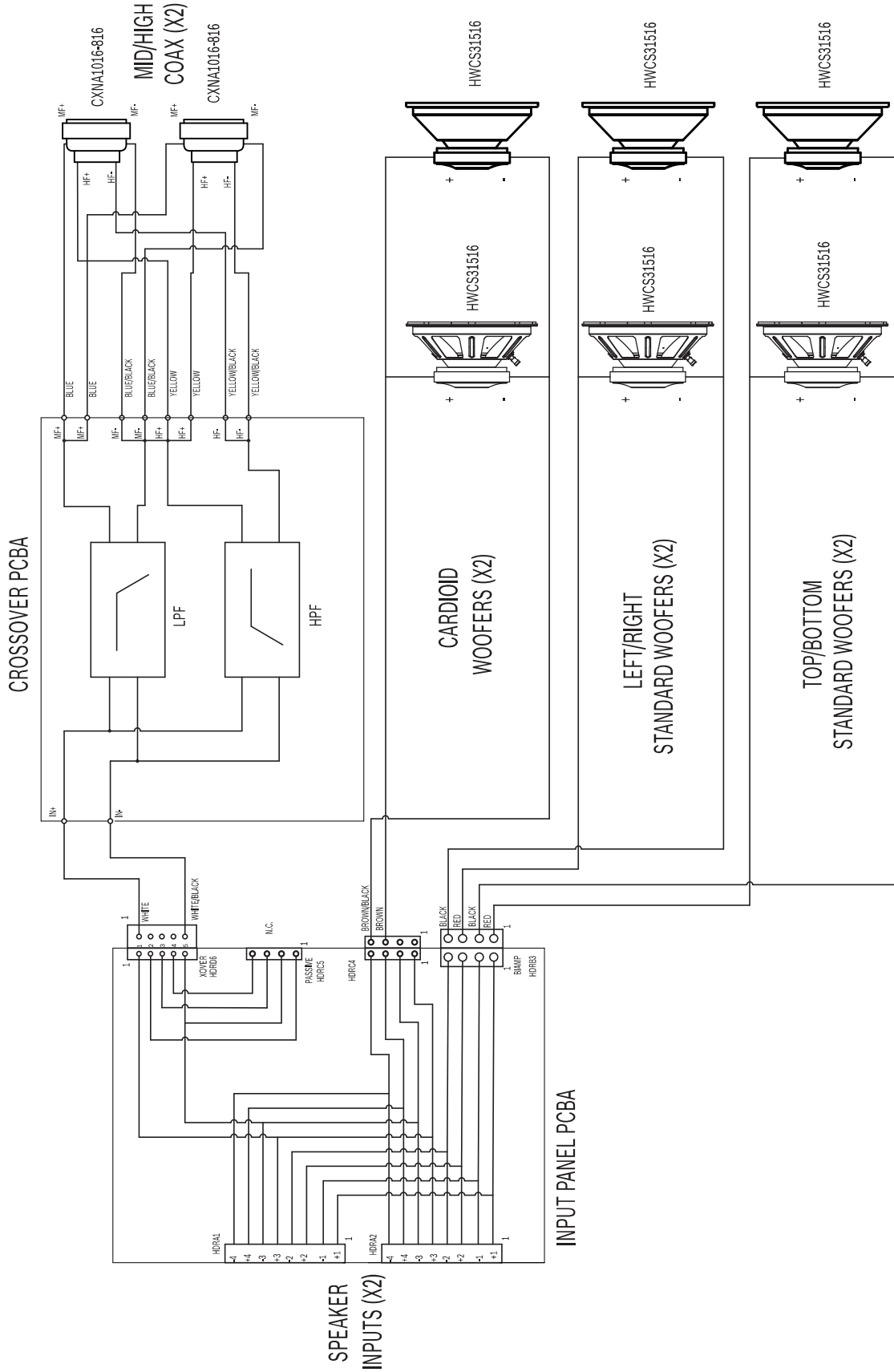
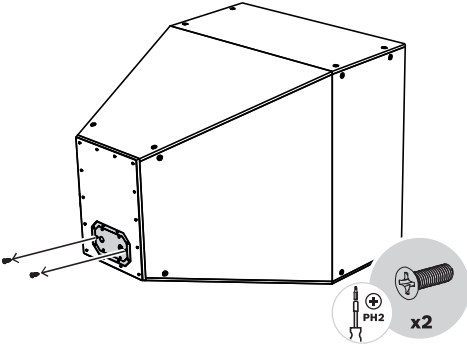
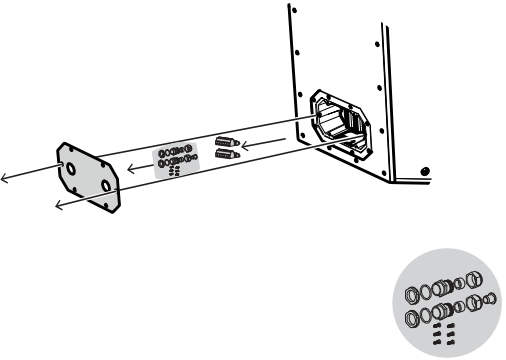
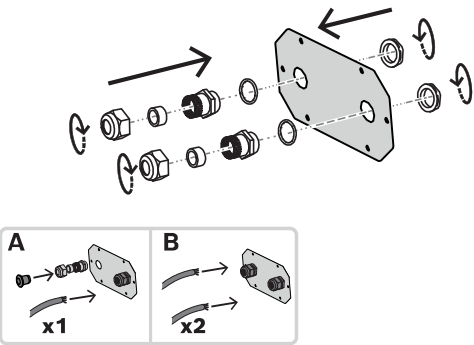
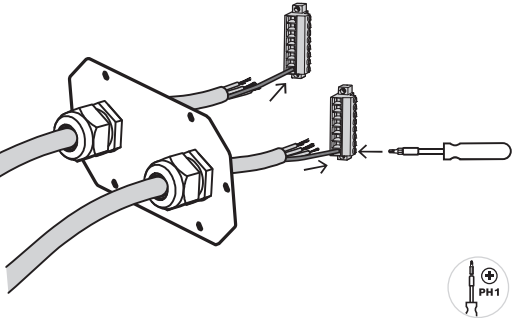


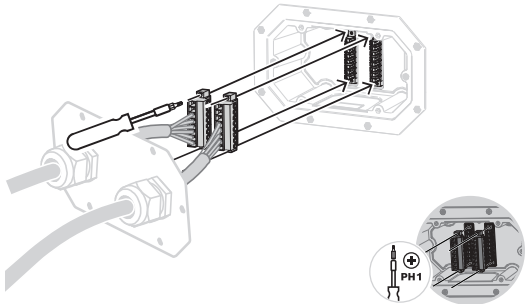
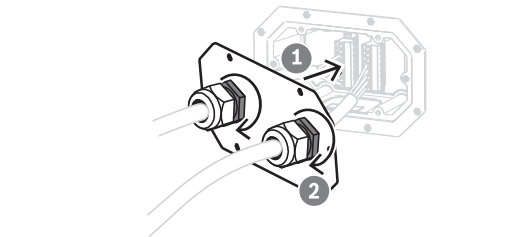
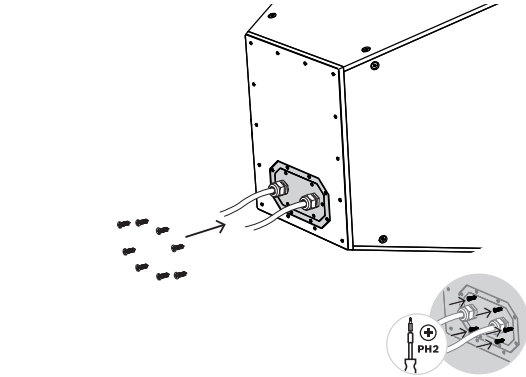
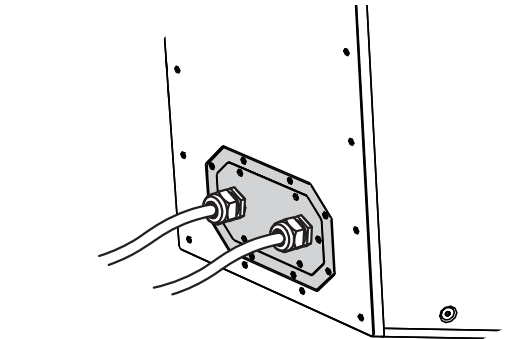
図 4.4: カーディオイドモデルの配線図

CARDIOID MODELS




4.4 耐候性プレートとグラウンドナットの設置

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入力カップから 2 本のねじと耐候性プレートを取り外します。ねじ穴は対称でないため、プレートの向きを書き留めておいてください。
	<ol style="list-style-type: none"> 2. 入力カップの内側からグラウンドナットキットと 2 つの端子ブロックコネクタを取り外します。
	<ol style="list-style-type: none"> 3. プレートにグラウンドナットを設置します。スピーカーに必要なケーブルが 1 本だけの場合、グラウンドナットのいずれかにグラウンドナットプラグを使用します。 4. ケーブルをグラウンドナットに通します。
	<ol style="list-style-type: none"> 5. 各配線を端子ブロックの適切な接点に接続します。

	<p>6. 端子ブロックを入力コネクタに接続し、4本の固定ねじを使用して固定します。</p>
	<p>7. グランドナットを通したケーブルを引っ張りながら、プレートを入力カップの方向に押します。外部フランジと面になる適切な位置まで押してください。</p> <p>8. グランドナットを締めます。</p>
	<p>9. 6本のねじを使用し、グランドナットカバーを入力カップに固定します。</p>
	<p>画像は、適切に取り付けたグランドナットカバーを示しています。</p>

5 MTS アレイの設計

5.1 電気音響設計

	<p>PREVIEW スピーカー ソフトウェアを使用して、アレイを設計します。</p> <p>PREVIEW は音響カバレッジを最適化するために利用できますが、機械的な設置方法の設計を検証することはできませんのでご注意ください。音響のモデリングには EASE または EASE Focus も使用できます。</p>
---	---

5.2 機械的な設計

MTS-4153 モデルには、アイボルトまたはサードパーティ製吊り下げハードウェアの接続用に 24 個の M10 外部吊り下げポイントがあります。

MTS-6154 モデルには、アイボルトまたはサードパーティ製吊り下げハードウェアの接続用に 32 個の M10 外部吊り下げポイントがあります。

信頼できるサプライヤーが製造した定格負荷の鍛造ショルダーアイボルトを使用してください。

Electro-Voice EBK-M10L-4HS（高強度 45mm アイボルト 4 本パック）に含まれるカーボンスチール製のアイボルトをお勧めします。EBK-M10L-4HS のデータシートを読んで完全に理解した後で使用してください。

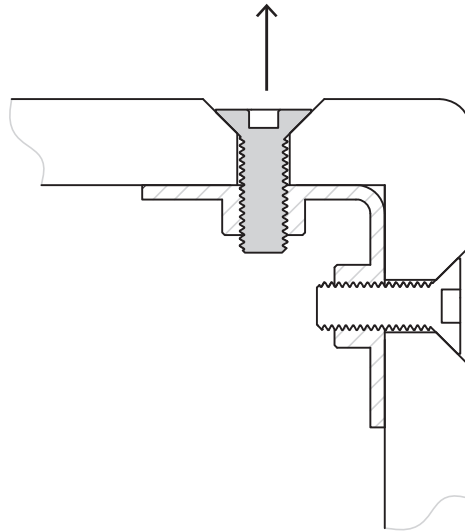
メーカーの負荷定格を決して超えないようにしてください。

定格不明のハードウェアは決して使用しないでください。

資格を持った人員が、吊り下げポイントについて提供されている以下の負荷定格を参照しながら、必要な安全係数に収まる支柱構造と吊り下げシステムを設計できます。

5.2.1 M10 吊り下げポイント：全般

スピーカーから M10 ファスナーを慎重に取り外します。各ブラケットからボルトを取り外す際は、毎回 1 本だけ取り外してください。そうしないと、ボルトを再挿入するときにブラケット全体が外れる可能性があります。



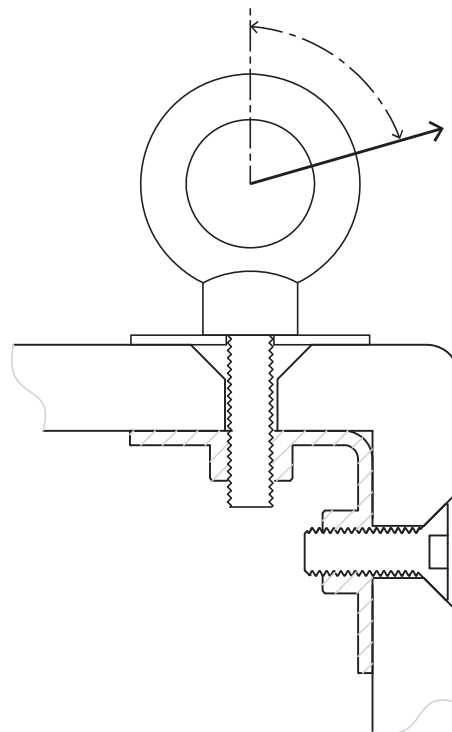
完全耐候性（FW）仕様のモデルでは、挿入の前に必ずファスナーを RTV（シリコンシーラント）でコーティングしてください。完全防水となるようにシーリングされ、ねじ山が完全にコーティングされていることを確認します。

5.2.2

M10 吊り下げポイント：任意の角度での取り付け

吊り下げシステムは、90° までの任意の角度でハードポイントを使用できます。最大 WLL は次のとおりです。

安全係数	WLL (lb)	WLL (kg)
8:1	300	136
10:1	240	109



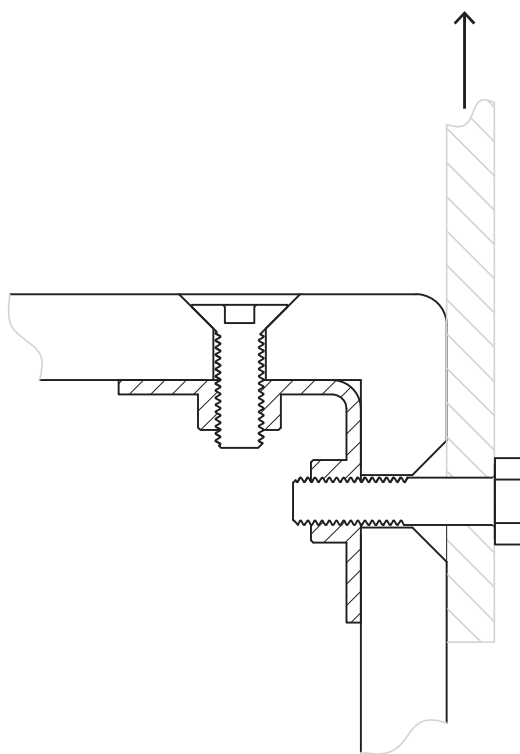
**警告!**

これはハードポイントの WLL であり、取り付けハードウェア（アイボルトなど）の WLL ではありません。必ず、合力の角度に対して計算した適切な WLL を持つ取り付けハードウェアを使用してください。

5.2.3**M10 吊り下げポイント:**

せん断力だけがハードポイントに作用するように組み立てられた吊り下げフレームは、せん断面の任意の角度でハードポイントを使用できます。最大せん断力は次のとおりです。

安全係数	せん断力 (lb)	せん断力 (kg)
8:1	450	204.1
10:1	360	163.3

**警告!**

これはハードポイントの最大せん断力であり、取り付けハードウェア（スチールフレームなど）の最大せん断力ではありません。必ず、適切な強度と安全係数を持つ取り付けハードウェアを使用してください。

重心が取り付けポイントの物理エンベロープ外にあると、せん断力がスピーカーの使用荷重を大幅に超える可能性があります。

5.3**推奨されるリギング方法**

MTS スピーカーの設置方法は 2 種類あります。

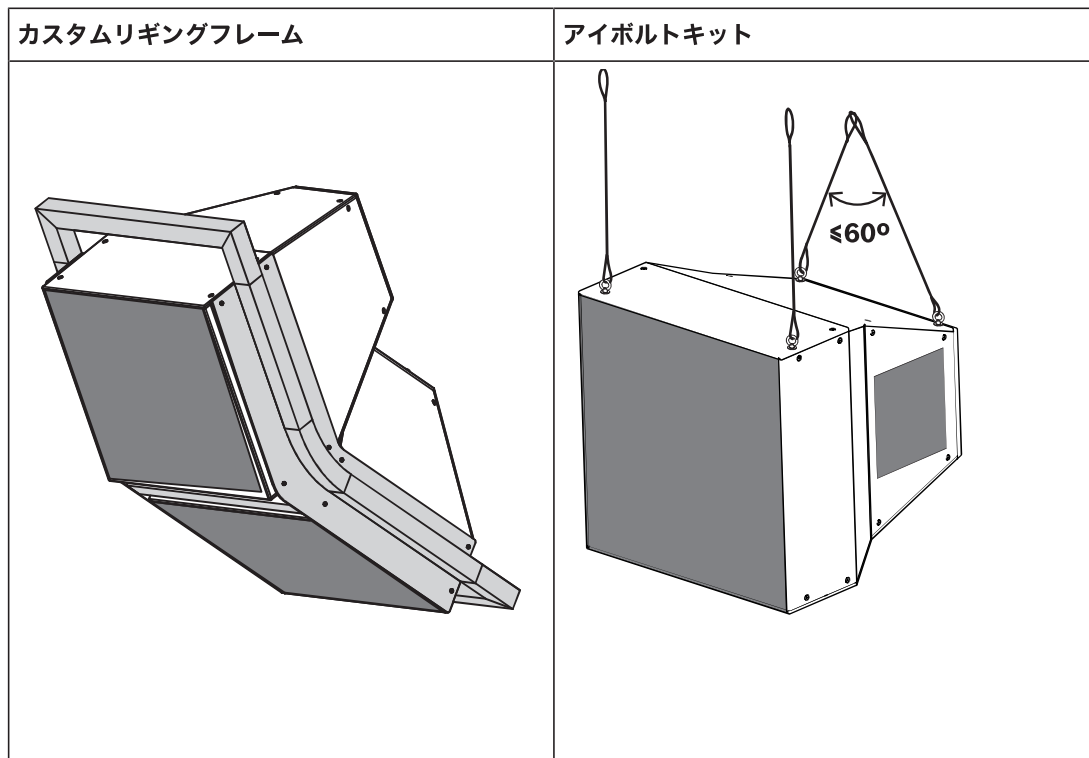
- アイボルトまたは類似の M10 ハードウェアを使用（単一のスピーカーを吊り下げる場合のみ）
- カスタムフレームを使用

**警告!**

カスタムフレームの設計、製造、設置にあたっては、適用される法律と規制に従って、資格を持った人員が行ってください。Electro-Voice 製ではないハードウェアを使って吊り下げを行う際は、Electro-Voice 社は、その責任を負いません。

**注記!**

Electro-Voice には経験と知識豊かなアプリケーションエンジニアが在籍しており、どのような設計に関する質問にも喜んでご対応いたします。テクニカルサポートの連絡先情報は www.electrovoice.com よりご確認ください。

**参照情報**

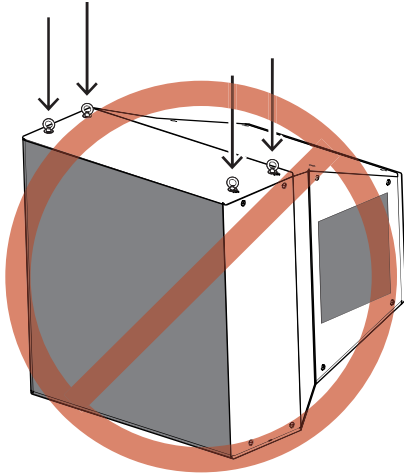
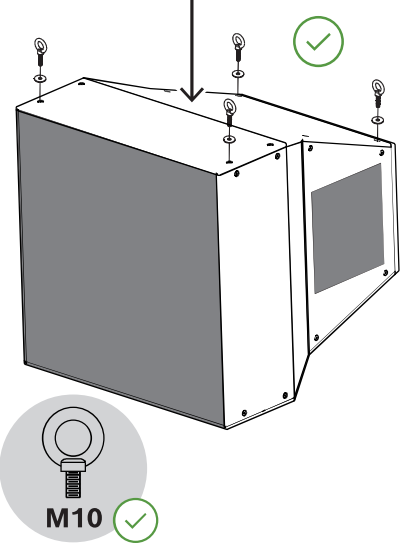
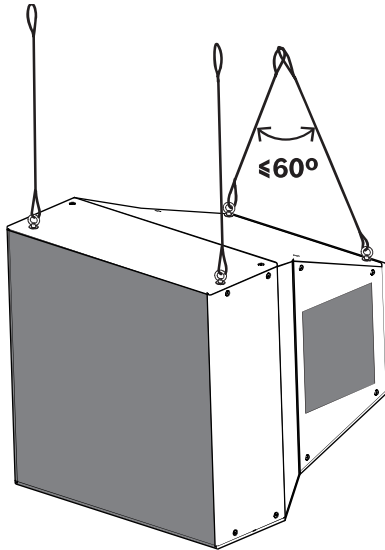
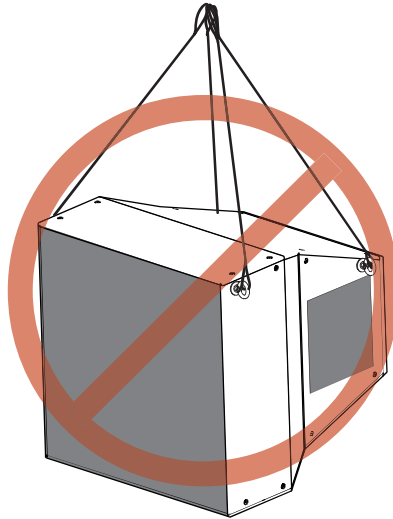
- 吊り下げ, ページ 4

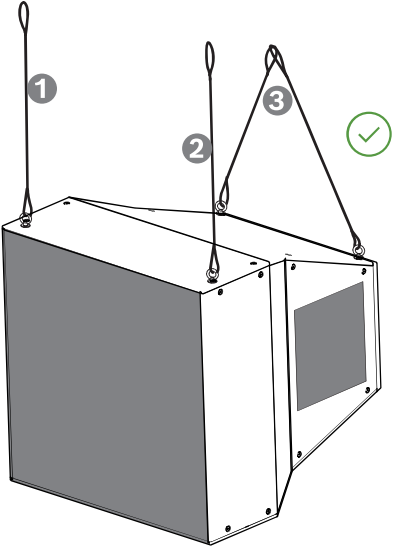
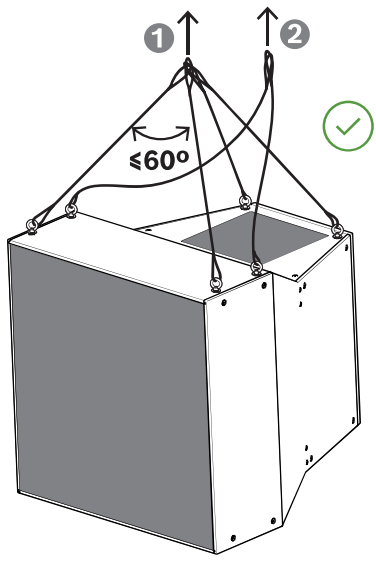
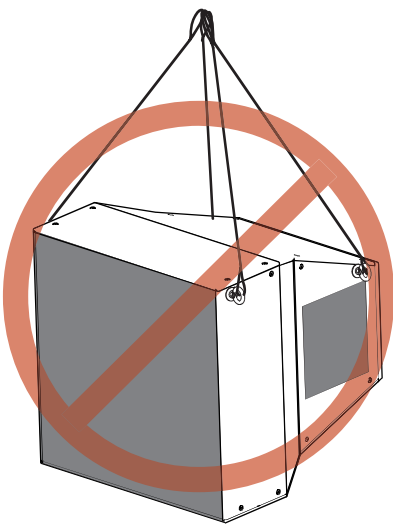
5.3.1**単一のスピーカーを M10 アイボルトを使用して吊り下げる**

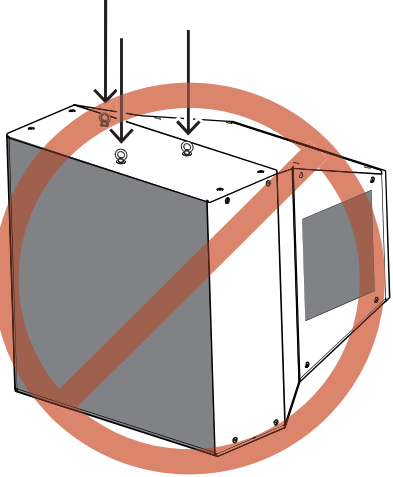
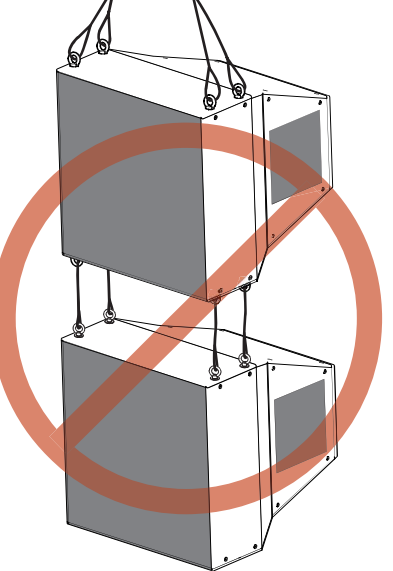
M10 吊り下げポイントを使用して MTS スピーカーを個別に吊り下げます。

MTS は非常に重いスピーカーです。最低 4 つのポイント（平面ごとに最低 2 つのポイント）を使用する必要があります。

- 適切に吊り下げるため、正しい定格のショルダーアイボルトを使用してください。Electro-Voice EBK-M10L-4HS（高強度 45 mm アイボルト 4 本パック）に含まれるボルトをお勧めします。
- このマニュアルとともに、アイボルトのメーカーが提供する安全な吊り下げに関する指示に従ってください。

	 <p>M10 ✓</p>
 <p>≤60°</p>	<ul style="list-style-type: none"> – ブライドル吊り下げの角度は 60° 以下にする必要があります。
	<p>シングルピックポイントの吊り下げシステムは使用しないでください。複数の構造ピックポイントを使用するか、シングルピックポイントと二次的な安全対策を併用してください。次の例を参照してください。</p>

	<p>ピックポイントを 2 つ以上使用します。この例では 3 つのピックポイントを使用しています。</p>
	<p>シングルピックポイントの吊り下げは、必要とされる安全係数を持ち、全体荷重を支えることのできる二次的な安全吊り下げと併せて実施する必要があります。「吊り下げ, ページ 4」を参照してください。</p>
	<p>MTS は必ず筐体の上部（筐体の向きを基準とする）から吊り下げてください。キャビネット側面のアイボルトに取り付けたケーブルからスピーカーを吊り下げることはしないでください。</p>

	<p>スピーカーを改造してカスタム吊り下げポイントを追加することはしないでください。付属の M10 ハードポイントのみを使用してください。</p>
	<p>MTS スピーカーの底面から MTS または他のスピーカーを吊り下げることは決してしないでください。</p>

5.3.2 カスタムフレームの設計に関する考慮事項



警告!

頭上吊り下げの工事は危険が伴う場合があるため、真上に機器を設置する技術と規制に関する十分な知識を持つ担当者だけが実施するようにしてください。

カスタムの吊り下げフレームの設計は、認定を受けた構造エンジニアのみが行うようにしてください。

そうしないと、大怪我や死に至る恐れがあります。



警告!

スピーカーアレイの吊り下げに Electro-Voice 製ではない吊り下げ金具を使用するときは、その製造会社に責任があります。

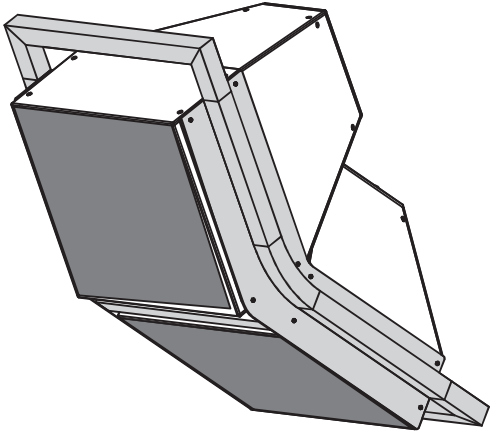
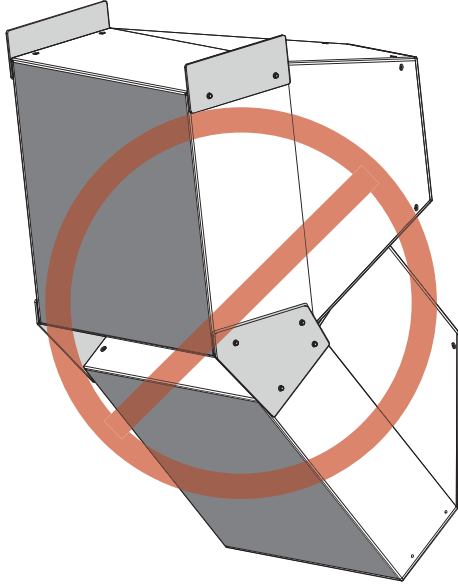


警告!

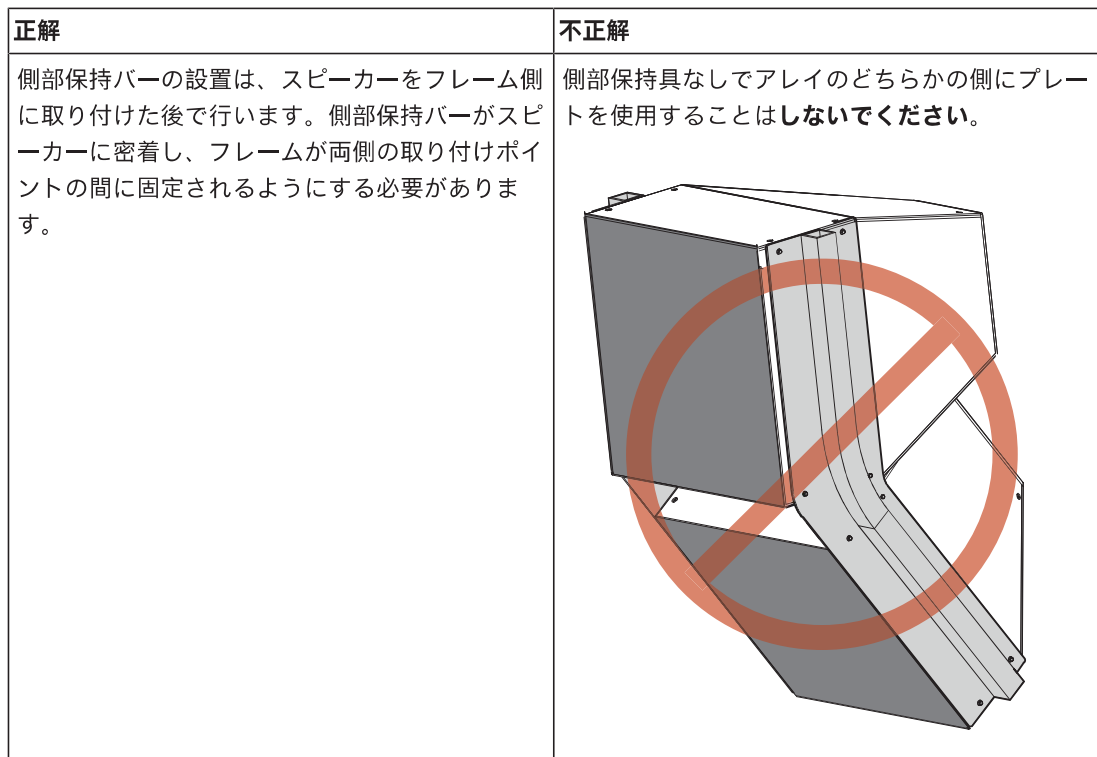
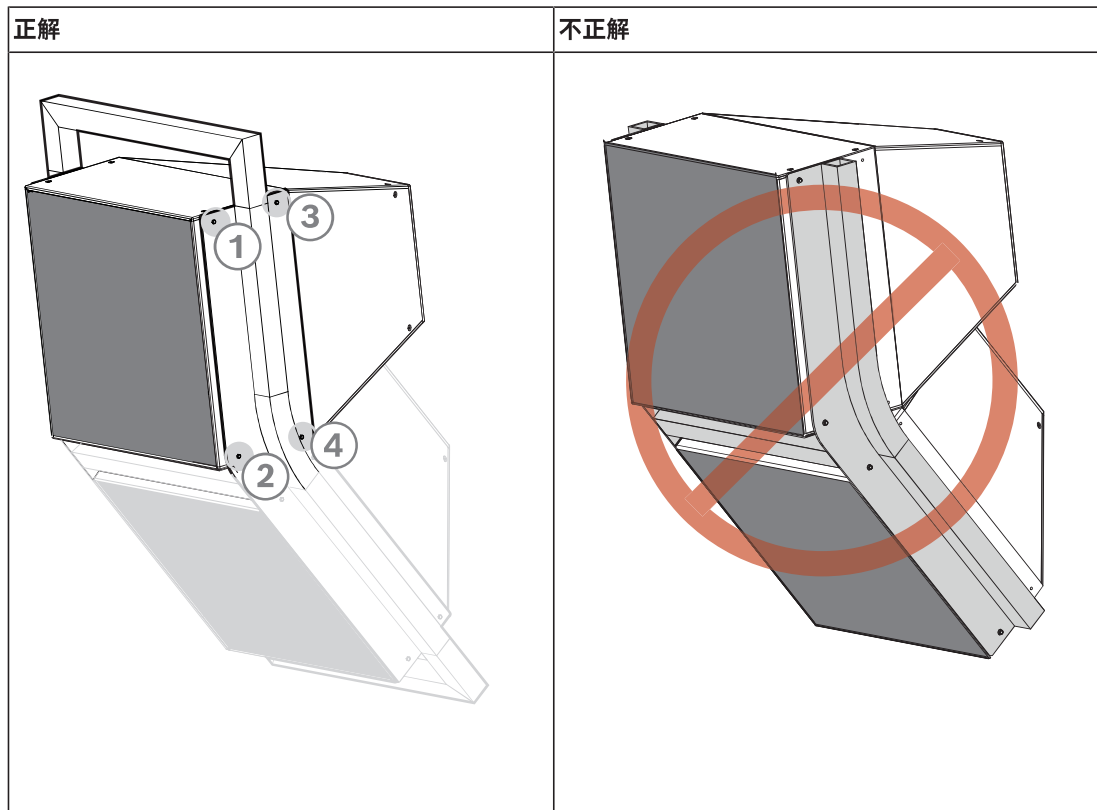
示されている簡易設計は、説明を目的とするもので、Electro-Voice による完全な設計を表したり、示したりするものではありません。

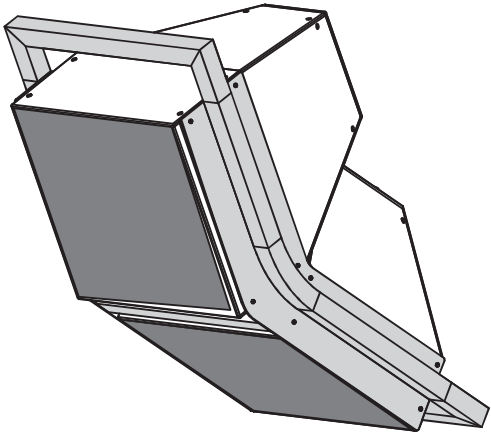
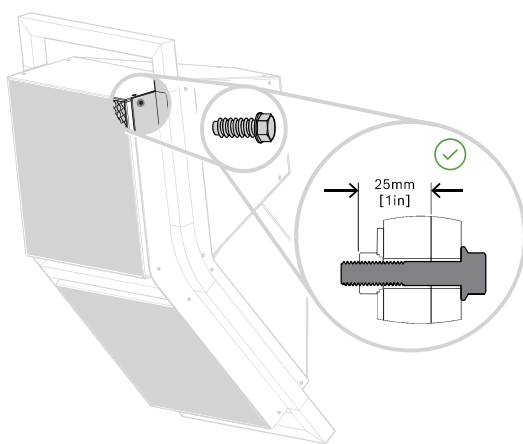
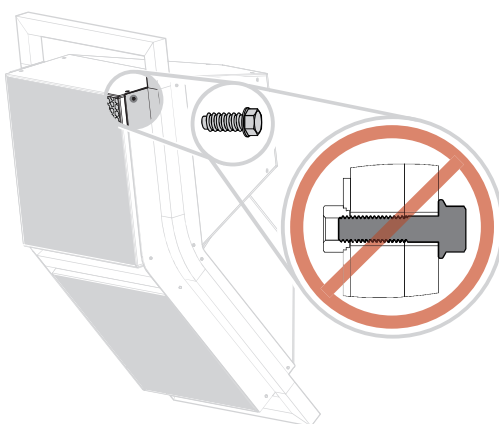
カスタムフレームの設計は、経験豊かな専門の構造エンジニアが現地の法律や規則に従って行う必要があります。

Electro-Voice がカスタム吊り下げシステムに関して責任を負うことは一切ありません。

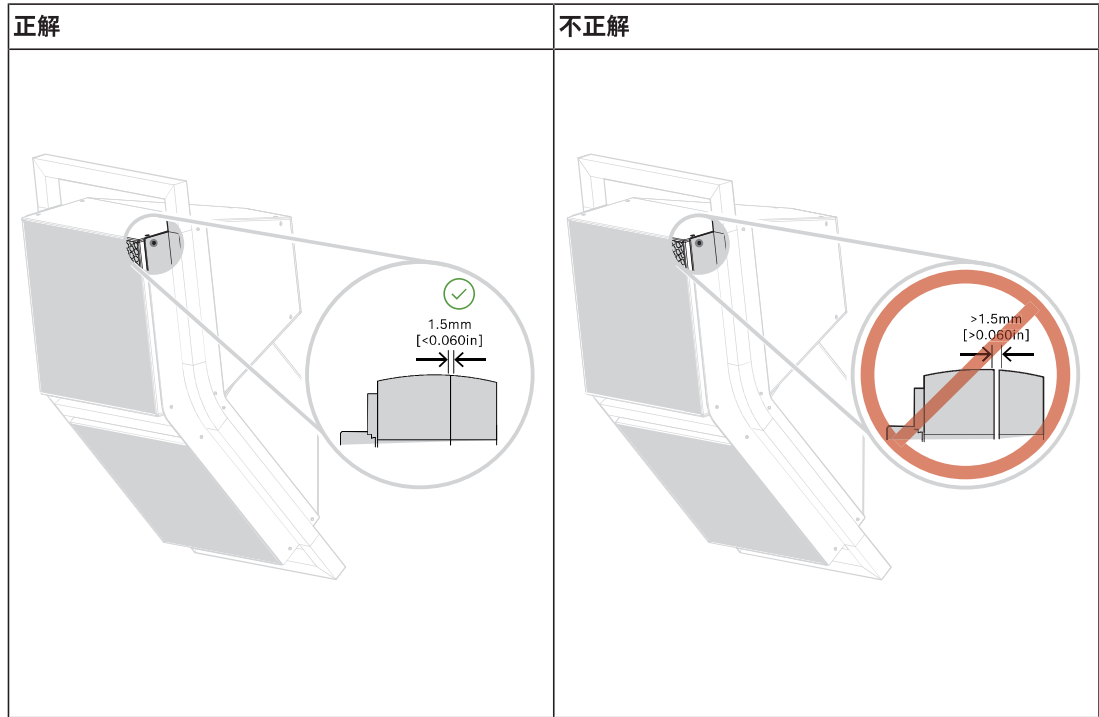
正解	不正解
<p>アレイの各エレメントはフレームから個別に吊り下げます。</p> 	<p>あるエレメントの吊り下げを別のエレメントの底面から行わないようにしてください。</p> 

正解	不正解
<p>各スピーカーエレメントで最低 8 つ（エレメントのそれぞれの側で 4 つ）の M10 構造ハードポイントを使用します。</p>	<p>スピーカーのそれぞれの側で使用する M10 ハードポイントが 4 つを下回ることがないようにしてください。</p>



正解	不正解
 <p>スピーカーエレメントを 30 ~ 45 mm (1.2 - 1.8 インチ) だけ貫通する M10 固定器具を使用してください。ねじロック剤を使用し、使用する固定器具の種類に対応した適切なトルクで締めます。固定器具のトルクは 13.5 N*m (120 in*lbs) を超えないようにしてください。現地の法律および規則に適した安全係数を使用し、スピーカー重量を支えることができる固定器具のみを使用してください。</p> 	<p>長すぎるまたは短すぎる固定器具は使用しないでください。</p> 

<p>正解</p> <p>カスタムフレームとエンクロージャ間の隙間は 1.5 mm (0.06 インチ) 未満にする必要があります。</p>	<p>不正解</p> <p>エンクロージャとカスタムフレーム間の隙間が 1.5 mm (0.06 インチ) を超えることはないようにしてください。</p>
---	---



6 耐候性設計に関する考慮事項

6.1 IP（浸透保護）

MTS モデルは EV コーティングで仕上げられています。グリルは撥水加工されており、グランドナットカバーを正しく取り付けすることで、水や塵が侵入しないように入力カップを密封できます。

MTS モデルはすべて、下に 5° 傾けた場合に IP55 等級となっています。

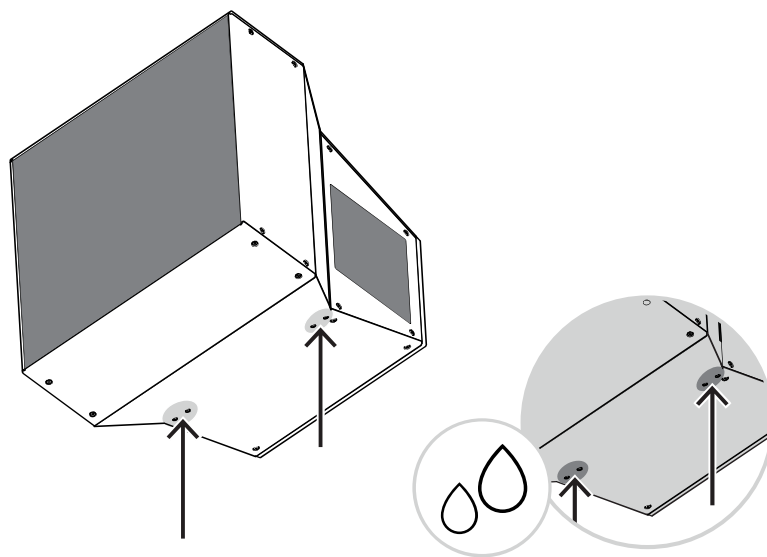
部分耐候性（PW）仕様のモデルは屋根やキャノピーの下に設置し、風、雨、直射日光に連続して直接さらされることがないようにする必要があります。

完全耐候性（FW）仕様のモデルは、これらの要素に直接さらされる場所に設置できます。

6.2 排水孔

MTS の完全耐候性モデルは、筐体の底面にオプションの排水孔があります。これらの排水孔は、時間とともに溜まる水を排出するように設計されています。

MTS スピーカーが雨に直接さらされる用途では、設置担当者が排水孔を開くことをお勧めします。



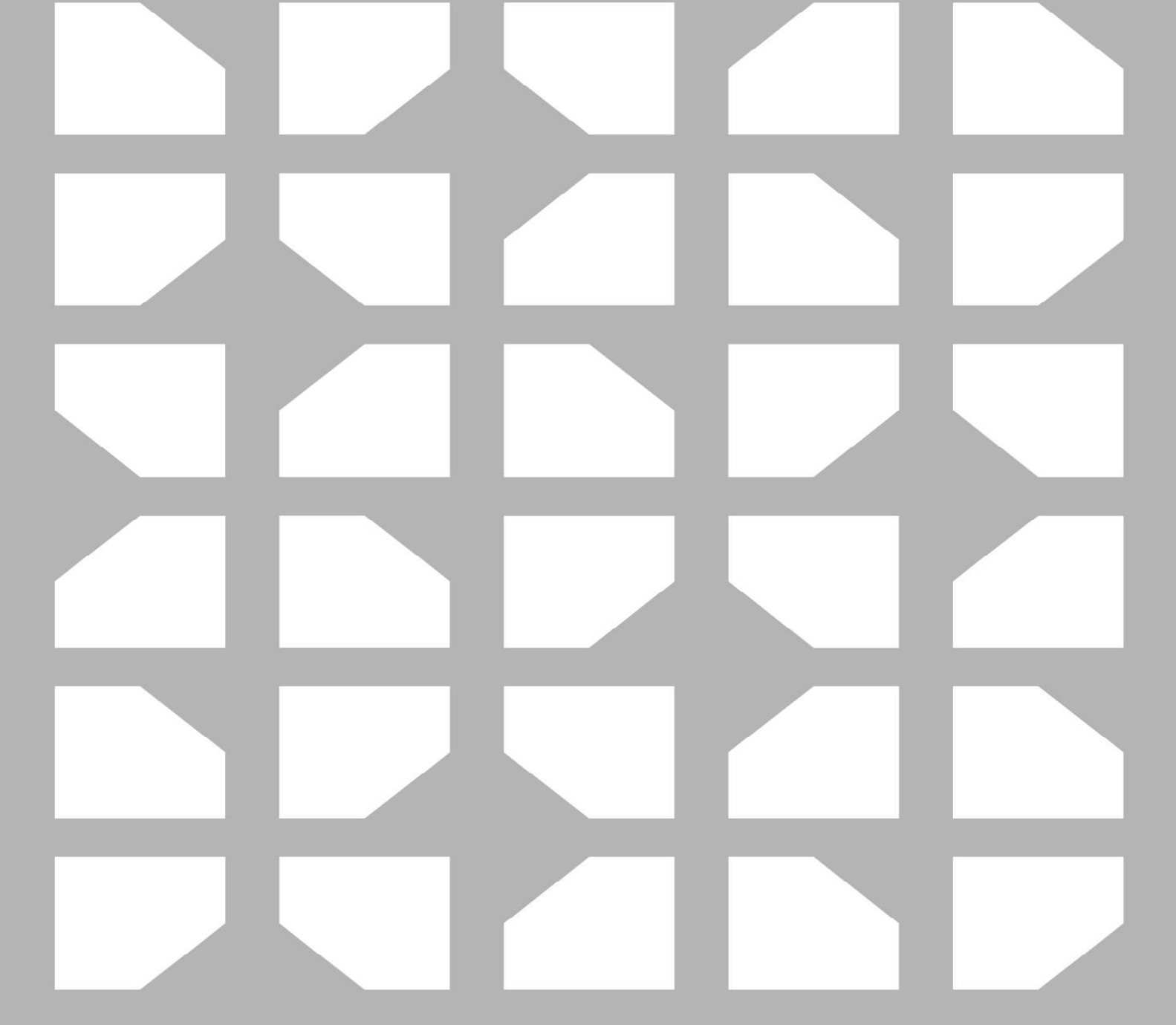
注記!

排水孔を開くと、通常の傍聴距離では聞き取れない小さな空気ノイズがスピーカー付近で生じる可能性があります。



警告!

M8 排水孔を使ってスピーカーを吊り下げることはいけません。



Bosch Sicherheitssysteme GmbH Bosch Security Systems, LLC

Robert-Bosch-Ring 5
85630 Grasbrunn
Germany

www.boschsecurity.com

© Bosch Sicherheitssysteme
GmbH, 2022

12000 Portland Avenue South
Burnsville MN 55337
USA

www.electrovoice.com

© Bosch Security Systems,
LLC, 2022